

児童 地元の里山整備

富山・五福小 竹切り、道に敷く

富山市五福小6年生66人は7日、NPO法人きんたろう倶楽部が富山市フアミリーパーク内で管理している「きんたろうの森」で里山整備を体験し、自然環境の維持に関心を高めた。

きんたろうの森 作業初参加

五福小近くの金屋地区の「さとの会」は5月、奥羽丘住民らでつくる「金屋ふる」陵でヒートアップなどの整備



切った竹を運ぶ児童

富山市五福小

に乗り出した。同校は、児童にも地元の自然に愛着を持ってもらおうと、倶楽部が手掛けてきた竹林整備に初めて参加を申し出た。

きんたろう倶楽部や金屋ふるさとの会の24人が竹の切り方などを指導し、児童は両団体メンバーと協力して鎌でクマザサなどの下草を刈り、竹をのこぎりで切って運び出した。切った竹を機械でチップにして土と混ぜて運び、山道に敷き詰めて歩道も整備した。

福武幸奈さんは「のこぎりを引くときに力を入れると教わり、その通りに切ると楽に竹が切れた」と笑顔を見せ、吉岡賢太郎君は「竹を一本切るだけで苦労した。整備する人たちは休まず竹を運んでいて元気だなと思った」と話した。

5年生も21日に金屋地区

富山新聞 平成29年6月8日(木)

で里山整備を体験する。野村博之教頭は「これからも地元で貢献できることに関わっていきたい」と話した。